

平成25年度第1回定例会

八王子市教育委員会会議録

日	時	平成25年4月10日(水)	午前9時
場	所	八王子市役所 議会棟 4階	第3・第4委員会室

第1回定例会議事日程

1 日 時 平成25年4月10日（水）午前9時

2 場 所 八王子市役所 議会棟 4階 第3・第4委員会室

3 会議に付すべき事件

- 第1 第1号議案 八王子市教育委員会事務局等職員人事に関する事務処理の報告について
- 第2 第2号議案 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価において意見を聴く学識経験者の選任について
- 第3 第3号議案 八王子市学習支援委員に関する規則の一部を改正する規則設定について
- 第4 第4号議案 八王子市第二次特別支援教育推進計画について

4 報告事項

- ・八王子市立学校における学校運営協議会委員について (教育総務課)
- ・教職員の服務事故に係る経過報告について (指導課)
- ・読書感想文コンクール等入賞者の海外派遣について (図書館)

その他報告

八王子市教育委員会

出席委員（5名）

委 員 長	(1 番)	小田原 榮
委 員	(2 番)	和 田 孝
委 員	(3 番)	川 上 剋 美
委 員	(4 番)	金 山 滋 美
教 育 長	(5 番)	坂 倉 仁

教育委員会事務局

教育長（再掲）	坂倉 仁
学校教育部長	野村 みゆき
学校教育部指導担当部長	相原 雄三
教育総務課長	小林 順一
学校教育部主幹 （企画調整担当）	平塚 裕之
施設整備課長	岡 功英
学事課長	細井 東
学校教育部主幹 （保健給食担当）	森田 聖二
指導課長	廣瀬 和宏
指導課統括指導主事	山下 久也
指導課統括指導主事	山本 武
学校教育部主幹 （支援教育担当）	穴井 由美子
指導課前任指導主事	菅野 直博
生涯学習スポーツ部長	天野 克己
生涯学習スポーツ部国体推進室長	富貴澤 繁幸
生涯学習スポーツ部参事 （図書館担当）	豊田 学
生涯学習総務課長 （企画調整担当主幹兼務）	宮木 高一
スポーツ振興課長	立川 寛之
生涯学習スポーツ部主幹 （スポーツ施設担当）	橋本 徹
国体推進室主幹	高橋 利光
国体推進室主幹	岩田 充
学習支援課長	新井 雅人
文化財課長	田島 巨樹
生涯学習スポーツ部主幹 （図書館担当）	中村 照雄

生涯学習スポーツ部主幹 (図 書 館 担 当)	村 田 浩 三
生涯学習スポーツ部主幹 (図 書 館 担 当)	福 島 義 文
生涯学習スポーツ部主幹 (こ ど も 科 学 館 担 当)	牛 山 清 志
八王子市立式分方小学校長	清 水 弘 美
教 育 総 務 課 主 査	佐 藤 晴 久
教 育 総 務 課 主 査	平 井 健 太 郎
教 育 総 務 課 主 査	堀 川 悟
指 導 課 主 査	栗 澤 哲 也
生 涯 学 習 総 務 課 主 査	吉 本 知 宏

事務局職員出席者

教 育 総 務 課 主 査	遠 藤 徹 也
教 育 総 務 課 主 任	川 村 直
教 育 総 務 課 主 事	南 之 園 容 子

【午前9時00分開会】

○小田原委員長 大変お待たせいたしました。

本日の委員の出席は5名全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより、平成25年度第1回定例会を開会いたします。

いまだ電力不足が懸念されている中、本市では節電の取り組みを継続しております。照明は一部消灯とさせていただいておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は、2番、和田孝委員を指名いたします。よろしくお願いたします。

なお、議事日程中、報告事項「教職員の服務事故に係る経過報告について」は、報告内容が個人情報に及ぶため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条第6項及び第7項の規定により、非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 御異議ないものと認めます。

○小田原委員長 それでは、それ以外の日程について進行いたします。

まず、日程第1、第1号議案「八王子市教育委員会事務局等職員人事に関する事務処理の報告について」を議題に供します。

本案について、教育総務課から御説明願います。

○小林教育総務課長 それでは、第1号議案「八王子市教育委員会事務局等職員人事に関する事務処理の報告について」を御説明いたします。

詳細は、担当の平井主査から御説明いたします。

○平井教育総務課主査 第1号議案は教育委員会事務局等の管理職に関する人事についてでございますが、これにつきましては「八王子市教育委員会の権限委任に関する規則」第4条第1項の規定に基づき、教育長におきまして事務処理をいたしましたので、承認を求めるものでございます。

資料4枚目の第1号議案関連資料をもとに御説明させていただきます。

まず、平成25年3月31日付発令ですが、学校教育部の海野学事課長、生涯学習スポーツ部の榎本部長及び図書館担当の遠藤主幹が定年退職により、市長部局へ転出となりました。

続きまして、平成25年4月1日付発令についてでございます。学校教育部につきましては、布袋学校教育部次長兼教育総務課長が会計課長、山野井保健給食担当主幹が健康福祉部生活衛生課長、加藤施設整備課長が水循環部水再生課長として、それぞれ市長部局へ転出となりました。

転出者の後任としまして、施設整備課長には財務部から岡次長、学事課長には健康福祉部障害者福祉課から細井次長、保健給食担当主幹にはこども家庭部子どものしあわせ課から森田主幹、教育総務課長には総合政策部都市戦略室から昇任により、小林課長が転入しております。

続きまして、学校教育部、教育委員会内における昇任者でございます。平塚学校教育部企画調整担当主幹が昇任により、学校教育部次長兼企画調整担当主幹となっております。

生涯学習スポーツ部につきましては、八王子市図書館長を兼務しておりました穂坂参事が総合政策部市史編さん室長、小山スポーツ振興課長が総合政策部政策審議室主幹として、市長部局へ転出となりました。

転出者の後任としまして、生涯学習スポーツ部長には、総務部IT推進室から天野部長、八王子市図書館長を兼務する生涯学習スポーツ部参事には選挙管理委員会から豊田参事、図書館担当の主幹には市民活動推進部から村田主幹、スポーツ振興課長には総合政策部都市戦略室から昇任により、立川課長が転入しております。

最後に、教育委員会内における昇任者でございます。宮木生涯学習総務課長兼企画調整担当主幹が昇任により、生涯学習スポーツ部次長兼生涯学習総務課長兼企画調整担当主幹となっております。

説明は以上でございます。

○小田原委員長 教育総務課からの説明は終わりました。

本案にいて、御意見、御質疑はございませんか。

説明の中に文言として退職により市長部局へ転出を命じたとありましたが、逆ではないですか。

○小林教育総務課長 はい。退職のためではありません。

○小田原委員長 退職のためではなく、こちらの権限で市長部局に出向を命じ、市長部局で退職となったということですね。

○小林教育総務課長 はい。

○小田原委員長 他に御質疑、御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 他にないようでありますので、お諮りいたします。ただいま議題となっております、第一号議案については、御提案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 御異議ないものと認めます。

よって、第1号議案については、そのように承認することにいたしました。



○小田原委員長 次に、日程第2、第2号議案「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価において意見を聴く学識経験者の選任について」を議題に供します。

本案について、教育総務課から御説明願います。

○小林教育総務課長 それでは、第2号議案「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価において意見を聴く学識経験者の選任について」を説明いたします。

説明は、担当の佐藤主査より御説明いたします。

○佐藤教育総務課主査 それでは、第2号議案につきまして、御説明いたします。

本案につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条第2項の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うに当たり、御意見を伺う学識経験者の選任について決定するものです。

なお、選任する学識経験者につきましては、継続性の確保と、より多様な意見をいただきたいことから、任期を3年とし、毎年1名を交代することとしております。

それでは、議案関連資料を御覧ください。

新任といたしましては、星野昌治氏の選任をお願いいたします。星野氏でございますが、現在は帝京大学教育学部初等教育学科の教授、帝京大学小学校長、帝京大学教職員大学院教授として御活躍されていらっしゃいますが、東京都教育庁や公立学校での勤務経験もお持ちの方で、本市の浅川小学校での研究授業にも講師として御助言をいただくなど、本市の小中学校にもゆかりのある方でいらっしゃいます。

継続される方は2名で、3年目の炭谷晃男氏、2年目の小林昭代氏、お二方をお願いします。

以上3名の方から御意見を頂戴するという形で、進めたいと考えております。

星野氏は学校教育関係、炭谷氏は生涯学習関係、小林氏は行政関係で、平成25年度はお願いすることになります。

なお、具体的にいただく意見は、施策全般的な意見と、40の施策のうちの11の重点施策について、おのおの意見をいただく予定でおります。

今後のスケジュールでございますが、今年度は国体が開催される関係で、決算が審議される第3回の市議会定例会の日程が1週間程度前倒しになる予定になっております。その関係で、点検・評価の取りまとめも、昨年度よりも少し日程を早めたいと考えております。

説明は以上になります。

○小田原委員長　　ただいま教育総務課の説明は終わりました。

本案につきまして、御質疑、御意見はございませんか。

○和田委員　　星野委員については、昔から私はよく存じ上げていて、先ほど紹介がありましたように、浅川小学校の校内研究の推進に、長くかかわっていらっしゃる方だと思います。八王子市の学校の様子や、さまざまな教員に関する情報などもお持ちになっているので、そういう学校現場の状況を把握しながらの御意見がいただけるのではないかと考えております。期待しております。

○小田原委員長　　ということでございます。そのほかいかがですか。

そうすると、議会日程の関係で、9月の段階での点検・評価になるわけですか。

○佐藤教育総務課主査　　第3回の市議会定例会に報告し、資料を提出しますが、昨年は8月上旬でお願いしたのですが、議会の日程が少し前倒しとなりますので、今回は7月の終わりにお願いしたいと思います。

○小田原委員長　　その6月議会が7月になるということですか。

○佐藤教育総務課主査　　9月議会が始まるのが早くなる関係と、あとは印刷の時間もありませんので。

○富貴澤国体推進室長　　国体の日程が、9月30日から10月5日に八王子市で開催され、その間は議会が休会という扱いになりますので、前後にずれるという考え方でございます。

○小田原委員長　　そういう期間日程での点検・評価ということですね。

その他、御質疑、御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 では、お諮りいたします。ただいま議題となっております第2号議案については、御提案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 御異議ないものと認めます。

よって、第2号議案につきましては、そのように決定することにいたしました。



○小田原委員長 次に、日程第3、第3号議案「八王子市学習支援委員に関する規則の一部を改正する規則設定について」を議題に供します。

本案について、生涯学習総務課から御説明願います。

○宮木生涯学習総務課長 それでは、第3号議案「八王子市学習支援委員に関する規則の一部を改正する規則設定について」を担当の吉本主査から御説明申し上げます。

○吉本生涯学習総務課主査 それでは、八王子市学習支援委員に関する規則の一部を改正する規則設定について、御説明いたします。

改正内容及び理由についてですが、平成22年6月23日に開催されました平成22年度教育委員会第5回定例会の第15号議案「八王子市学習支援委員の委嘱について」の審議の中で、生涯学習は社会教育及び学校教育を包含したものであり、生涯学習関係者と社会教育関係者の選出区分を分ける理由がないとの指摘がございました。

また、学習支援委員は他の審議会等と異なり、市の事務事業について審査や調査等を行うことを目的としていないため、今回の改正において選出区分を削除し、選任の基準を生涯学習分野で知識、技能、経験を有しており、生涯学習の振興に熱意のある者と、より具体的な表現に改めるものです。

ただし、公募による4人の市民委員の選任は継続していきます。

施行期日ですが、現在の委員の任期が、平成25年6月30日までとなっておりますので、平成25年7月1日からの施行期日といたします。

説明は以上です。

○小田原委員長 生涯学習総務課からの説明は終わりました。

本案について、御質疑、御意見はございませんか。

○金山委員 公募による市民4名以外の方をどういう形で選任しているかということと、昨

年度の活動状況をお話しただけならと思います。

○吉本生涯学習総務課主査 公募委員4名の以外の方ですが、現在21名の委員がいらっしゃるの、何名かの方は引き続きお願いしたいと思っています。それ以外は、生涯学習センターで活動されている方、八王子生涯学習コーディネーター会というボランティア組織で活動されている方など、いろいろな専門分野の方を幅広く探して、お願いする予定でございます。

昨年の活動は、委員個人が各専門分野等で活動されるほか、八王子市の事業の成人式、障害者フェスティバル、青年ライブステージ、といった事業に共催で協力させていただいております。

○金山委員 委員の任期はないのですか。

○吉本生涯学習総務課主査 任期は3年でございます。

○小田原委員長 よろしいですか。

公募以外の方をどのように選任しているかという質問でしたので、その答えはどのようになりますか。

○吉本生涯学習総務課主査 個人としての活動実績等を評価し、所管課で選任しております。

○川上委員 人数に関係なく公募はいたしますということですが、そのことは示さなくて良いのですか。

○吉本生涯学習総務課主査 規則の設定の中には、文言としては入れていませんが、この規則設定の決裁の中で、公募委員の4名は継続するという形で決裁しております。

○小田原委員長 規則設定の中で入れなくてよいのかという質問なのです。つまり、規則を改正するときこのような形で削ってしまってよいのかということです。これは、修正案を出したらどうですか。

○坂倉教育長 いろいろな面で公募はとっているわけですから、所管課からの推薦もあるでしょうけれども、その中で必要があるときは4名にこだわらずもっと多くしてもいいですし、逆に生涯学習に通じた方、専門家がたくさんいれば、極端に言うと数がなくなった場合もあり得ると思いますので、それはそれでいいのではないかと思います。少し前は、市として市民参加という意味で公募を前面に出していましたが、今は前面に出さなくても、当然として必要があればやっていくという視点でいいのではないかと思います。

○小田原委員長 教育委員の公募をそういうふうに明記しているわけではないということなのですね。

- 川上委員　ここに書いていなくてもできるというお答えであれば構わないです。
- 坂倉教育長　前回のとき指摘されたことをせっかく直したのに、直した趣旨が答えられないと、形だけ直したということになるのです。そうではなくて、本当にふさわしい人を選ぼうと思っているからやったのですと、それで言えば、先ほどの聞かれ方だとしても、自分たちだけではなくて、例えばいろいろな推薦をもらったときに、それは単に所管推薦ではなくて、我々も見ているし、そういう意味では何々団体に任せているわけではなく、本当にふさわしい人を選んでいきますと、そういう答えをしてほしいということだと思います。
- 小田原委員長　そういう答えをしてみてください。
- 吉本生涯学習総務課主査　新しい委員の候補を教育委員会にかけるときには、各委員の活動実績等を詳細に記入して、公募も含めて選考、承認していただきたいと思っております。
- 小田原委員長　ふさわしい人を公募も含めて選任していきたい、という趣旨でこの改正になったということを書いてくれればよいと思うのですが、なかなか担当のほうからそれを言えません。教育長と私と皆さんの意見を踏まえた形で、このような改正になったというふうに御理解いただければと思いますけれども、よろしいですか。
- そのほかいかがですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 小田原委員長　他に意見もないようでありますので、お諮りいたします。ただいま議案となっております第3号議案につきましては、御提案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 小田原委員長　御異議ないものと認めます。
- よって、第3号議案につきましては、そのように決定することにいたしました。

-
- 小田原委員長　次に、日程第4、第4号議案「八王子市第二次特別支援教育推進計画について」を議題に供します。

本案について、指導課から御説明願います。

- 穴井学校教育部主幹　それでは、第4号議案「八王子市第二次特別支援教育推進計画について」を御説明いたします。

詳細については、担当の主査から御説明いたします。

○栗澤指導課主査 平成25年2月15日から3月19日において、八王子市第二次特別支援教育推進計画の素案に対するパブリックコメントの募集を行いました。

パブリックコメントにあたり素案をホームページ上で公開するとともに、市役所7階教育委員会の指導課支援教育担当の窓口での閲覧の他、教育センター、市内の各事務所、各図書館での閲覧ができるようにしました。

募集の方法は、持参、郵送、ファクス、Eメールという方法で行いましたが、提出者は11名でございました。

11名の方からいただいた御意見は52件で、本市のホームページで内容について公開しておりますが、御意見の多くはこの計画を書いているとおりにきちんと進めてほしいというもので、一部書かれている文言についてこういうふうに直してみてもどうかという御意見もありましたが、特に大幅に素案から変更するところはありませんでしたので、ほぼそのままの状態、今回のお手元の資料にございますように計画書を作成しております。

直したところにつきましては、42ページ、43ページになります。第4章の障害に関する説明の解説部分で、発達障害の解説が少ないのではないかという指摘が市民の方から御意見としてありましたので、「心理的な要因による選択性かん黙」、「学習障害」、「自閉症又はそれに類するもの（広汎性発達障害）」、それと「注意欠陥／多動性障害」についての解説を追加させていただいております。前回の素案から変更した部分については以上になります。説明は以上です。

○小田原委員長 指導課からの説明は終わりました。

本案について、御質疑、御意見はございませんか。

○川上委員 全部読ませていただきましたが、これができたらとてもよいだろうと思います。ただし、ここの中で今までやってきたことに対して、こうだったらいいだろうとか、連携が望まれるということとか、いろいろ課題があったのですけれども、いままでなぜそれをしていなかったのかが非常に残念でなりません。そういう仕組みがなかったからと言ってしまうと、これは教育の現場としてはおかしなことなのではないかと思います。先ほどの人選ではありませんが、本当に良いと思ったら、すぐに取り組むことが教育なのではないかと思います。

今回はこのような計画書を作成しましたが、現場というものは、一様ではありません

ので、全部を決められるわけではなく、そこに入らないものが必ずあるのです。だから、これを決めることで、これ以外のことをしなくなってしまうのではないかということが心配なところですが、今までよりも、もっともっと良くしようという思いが見せていただくとわかります。

現場にいらっしゃる先生方、いろいろな支援の方、そして私ども全員が本当に教育とは何なのだろうかということを考えて、言葉上でなく、制度上でなく、そういうことをわかって実践していける日が来ることを望んでいます。足りないところを、みんなでお互いに補い合ってやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○穴井学校教育部主幹 ありがとうございます。これをつくっただけで終わりということではなく、これから始まるということですので、これまでの反省も踏まえて、学校も家庭も地域も教育委員会も同じ方向性、要は子どもたちを見た中で、子どもたちが育つのを少しでもお手伝いができるように、意識を共有した中でやっていきたいと思っています。

○川上委員 とても良いことだと思ったのは、複数の人で見るということです。資格がある専門家の方であっても、やはり一人が見た見方というものとは完全ではありません。違った目で見れば、また違った考え方があるので、複数化というのは非常に良いことだと思いました。私が一番懸念するところは、専門家や役目を与えられた人が、責任を感じる余りに「自分」というものが強く出すぎていて、主観的になっているところを時々目にしていたものですから、複数の人がかかわることは非常に良いことだと思いながら読ませていただきました。

○金山委員 先ほどのパブリックコメントですが、否定的なものはありませんか。

○栗澤指導課主査 否定的なものについては、特にございませんでした。この計画を読んで、これは必要だと強く言われる御意見はあったのですが、これは要らないとか、これは違うというような御意見はありませんでした。

○野村学校教育部長 否定的ということではないのですが、第2章の第一次計画を振り返ってというところで、第一次計画の当時に使われていた言葉をそのまま載せているために、この言葉は不適當ではないかという御意見が数件ありました。

○金山委員 読ませていただいて、中身に関してはもちろんすばらしいと思いましたが、教育委員会としての支援体制は別として、各学校について考えたときに、この体制にすぐできるところとできないところがあり、格差がすごく出るのではないかと思います。

先生方の意識はいろいろあると思うのですが、その差が極力小さくなるように頑張っ

いただきたいと思いました。

○小田原委員長　格差が生じるだろうという点と、各学校の先生方に頑張ってもらいたいと言われたときに、具体的にどういうことになるのかという点の2つが問題点ですね。

○穴井学校教育部主幹　最初の計画の一番大きなところが、校内委員会の強化になるわけですが、委員がおっしゃるとおりに、現在でも学校間で意識、あるいは教員の知識、情報などの部分に各学校で格差があります。そうした中で、計画にも書いてありますように、巡回相談を強化したり、マネジメント体制を強化する中で、指導課、指導主事とも連携して各学校を支援していく、学校の校内体制を強化していく方向で教育委員会が支援する体制を整えていきたいと考えております。

○和田委員　この計画そのものは非常にいいと思うのですが、保護者の方が自分のお子さんの障害について、今までと少し違ってしっかり認識しながら支援を求めていくという姿勢になっているにもかかわらず、学校の先生方がそれに対して校内で組織的にそれを受けとめて、どうして展開していくのかというところがやはり弱いと思うのです。

ですから、そういう意味でコーディネーターの役割などを強化していかないと、この計画は絵に描いた餅になってしまうと思います。巡回相談などがあったときにお話をしてみるとか、そういう機会をたくさん作りながら啓発していかないと、計画があってもなかなか進まないということになってしまうと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

○穴井学校教育部主幹　今年度に入り、巡回相談の研究主事との話し合いで、研究主事の先生の経験値を踏まえた中で、若手教員とその配慮が必要なお子さんたちへの指導が十分ではない場合は、そうした指導方法についても助言ができる体制をつくっていかうということで、研究主事の先生方も協力を快く受けいただきました。そうしたこともやっていきたいと思ひますし、コーディネーター研修に教育相談や巡回相談の心理士も一緒に参加させていただいて、教育委員会で顔が見える関係をつくっていかうと計画をしているところです。

○川上委員　これはもう特別支援のことだけではなく、ほかのことも全てだと思ひますが、現場の先生方や直接子どもたちに接する方は、いつも研究をし続けていかなければならないだろうし、それでもいつも足りないのだろうと思ひています。その辺りにもう少し意識を持っていただければと思ひます。それともう一つ、私がいつも気になってしまうのが、楽しく学べるという言葉の使い方です。学ぶということは、楽しいことでもある

けれども、そうではないこともあるのです。楽しく学べないからだめだということにならないかと、いつも読みながら心配です。勉強は楽しくはないのです。でも、苦しんだり、辛かったりしたその後に学びの喜びがくるのだということです。でも表現としてはこれしかないのかなと思います。誤解されやすいのではないかといつも心配になります。

○小田原委員長 タイトルと中身で言っていることが違って、楽しいという言葉は説明の中には出てきていないのですが、そこはどうですか。

○川上委員 期待されてしまうとか、それを今度は逆にとられることも心配です。

○穴井学校教育部主幹 なかなか言葉遣いは難しく、ここで楽しく学べるというのは、障害のある子もない子も、学ぶことができたことが楽しいとか、嬉しいとか、そういう気持ちを持つような、環境をつくっていきこうという趣旨で楽しく学ぶと書いています。委員がおっしゃるような意味もよくわかります。楽しい学習でないことはもうやらなくていいということではなく、ただ達成感であるとか、特に発達障害系のお子さんは自己肯定感とか、そういうものが薄いお子さんもいらっしゃいますので、そうした中で学習が楽しいのだということを実現できたらいいと思っています。

○和田委員 学校の中の取りまとめをするコーディネーターの位置づけが、学校体制の整備の推進というところに書かれていて、例えば学級担任と兼務しながらのコーディネーターには負担軽減の配慮が必要であるという表現になっているのだけれども、それではコーディネーターをどういう方にやってもらいたいとか、校内でこういう人をお願いしたいというところまでは踏み込めていないのですよね。

というのは、要するに学校の中で特別支援の体制をつくっていくときに、主幹教諭や主任教諭という立場の人がコーディネーターをやる場合と、一般の担任の先生がやる場合では、組織に与える影響とか、活動のつながりみたいなものが全然違ってきます。だから、本当は担任の先生ではなくて、主幹教諭や主任教諭という立場の人がコーディネーターになるべきだというあたりの踏み込みをしていかないと、かなり個人的に走る人が多く、組織として、学校として特別支援を受け入れていくという雰囲気づくりや、校内体制づくりが難しくなっているところがあると思うのです。

課題で指摘されていることを解決するためにも、今後コーディネーターにはできるだけ組織の影響のある人や、学校をまとめられる立場にある人たちになっていただけるような方向で御指導いただけたらと思っています。

○穴井学校教育部主幹 策定委員会の中でもそうした議論が出ました。複数配置と書いた背景の中には、仕事の忙しさ等もあり、養護の先生や専科の先生になることが多いのですが、やはり学年主任の先生方に複数配置の中であっていただかないと、校内委員会を回していく中では影響力が少ないのです。そうした中で、複数配置を推奨するとあえて書かせていただきました。巡回等、また指導課とも調整した中で、研修の中でもこういった配置が望ましいと示していきたいと思っています。

○和田委員 複数配置も気をつけないと、責任の転嫁になるので、きちんと位置づけていかないといけないし、今のようにそういう取りまとめの組織の人が中心になっていくような形でお願いしたいと思います。

○小田原委員長 そのほかいかがですか。

○金山委員 またちょっと違う観点なのですが、特別支援担当の方が専門に集約してやるということですが、そこだけの話ではないと思うのです。教育委員会全体でサポートする必要があって、自分の担当でなくても、総がかりでやるという意識を持っていたくと、どの部署にその話が来ても集約できるということになるのではないかと思います。

○穴井学校教育部主幹 全くそのとおりだと思います。教育委員会はこれから組織改正を考えていきますが、こうした特別支援に関する意識は全課が共通して、それぞれが連携した中で同じ方向を向いてやれるようにしていきたいと思っています。

○小田原委員長 第二次特別支援教育推進計画は、学校外の行政、地域、保護者、それから学校内の組織体制の整備充実、それとその相互の連携だと思うのですが、その成果が期待されるには、一番大事なことは何だと考えていますか。

○穴井学校教育部主幹 一番重要なことは、連携に入っている組織や学校だけではなくて、地域も含めた市民全体が特別支援教育についてきちんと正しい理解をし、地域の子どもの将来を一緒に考えられるような、そうした意識を皆さんで持っていただくことだと思います。また、特別支援教育に限らず、教育委員会として教育について、将来を担う子どもたちをどういうふうに育てていくのかという意識を、皆が持つことだと思います。

よく保護者の会の方ともお話をしますが、特別に支援を要するお子さんは誰なのかというと、障害があるもないも限らず全ての子どもたちが対象なのだというお話をしますが、まさに教育全般そういったことだと考えています。

○小田原委員長 私たちの意識、心がけ、考え方、それが体制をつくっていく、組織を充実させていく、連携を進めていくことになるだろうということですね。

それを学校で考えてみた場合、ある学校では子どもたちが入ってくるであろう幼稚園、保育園に全てに行って、情報を集めた上で入学式を迎えたというのですが、そういうことを進めていくには学校の教員の数がやはり少ない、足りないという感じがするのです。

行政改革を進めてきて、職員が絶対的に少なくなっている中で、学校の中も先生が足りないという印象を受けます。これは私たちの力ではどうにもならないところだろうと思いますけれども、そこをどう解決していくのか考えていきたいと思っています。

○穴井学校教育部長 ここが一番の大きなポイントとして校内体制の強化があるわけですが、そこをサポートするものとして、学校サポーターの育成、人材育成を掲げています。職員については、八王子市単独で教員を増やすというのはなかなか難しいと思いますが、幸いにも今回計画をつくっている中で、医療機関や大学の先生等の協力関係はある程度そろうのかなと考えた中で、地域の人たちも、学習意欲の高い人たちが増えていますので、お金はたくさん払えませんが、そうした支える仕組みの中の人材育成を強化していく、そこが八王子市ができる最短の施策と考えていますので、そのところを集中的に頑張っていきたいと思っています。

○小田原委員長 そのほかいかがですか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 他にご意見もないようでありますので、お諮りいたします。ただいま議題となっております第4号議案につきましては、御提案のように決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 御異議ないものと認めます。

よって、第4号議案については、そのように決定することにいたしました。



○小田原委員長 続いて、報告事項となります。教育総務課から報告願います。

○小林教育総務課長 それでは、八王子市立学校における学校運営協議会委員について、報告させていただきます。詳細は、担当の堀川主査より説明させていただきます。

○堀川教育総務課主査 平成25年度学校運営協議会委員について、八王子市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則第4条第1項に基づき決定いたしましたので、

報告いたします。

お配りしてあります資料を御覧ください。本年度、新規指定6校、再指定校6校、委員の任期満了による9校について、学校運営協議会委員を決定しております。

これらの学校運営協議会委員の任期は、平成25年4月1日から平成27年3月31日までの2年でございます。

任期途中の委員の変更については、資料6ページ以降を御覧ください。

後任の委員の任期は前任者の残任期間でございます。なお、委員の委嘱については、教育長及び学校教育部管理職より第1回学校運営協議会開催時に委嘱状を交付しているところでございます。

以上で説明を終わります。

○小田原委員長　ただいま教育総務課の報告は終わりました。本件について、御質疑はございませんか。

○金山委員　この運営協議会委員を選任する基準はありますか。決定する前に、例えば、校長先生にヒアリングをしましたか。

○小林教育総務課長　委員を選任する基準は、原則的には、校長からの推薦に基づいて決定しております。

○金山委員　伺いたかったのは、学識経験者を必ず何名くらい入れるということや、地域住民や、保護者を必ず入れるということは、指導をなさっているのでしょうか。

○小林教育総務課長　学校によって、委員の構成及び人数は異なりますが、バランスを考えて保護者、地域住民、学識経験者につきましては、1名は入れていただくのがよろしいかと考えております。ただ、その運営協議会の中で考え方があり、例えばひよどり山中学校については、今年度新規に指定しておりますが、学識経験者が入っておりません。これは初年度ということで、まずは学校評議員からのスムーズな移行を目的としたもので、来年度以降は委員構成のバランスを考えるということです。農業を積極的にやっていきたいという学校でございますので、そういう方面に明るい方の力を借りていきたいということでした。その地域の実情を考えて校長がバランスよくということで考えております。

学校から推薦が挙がってきた時に、構成のバランスが悪いようであれば、お話をさせていただき、校長に再考していただくという形をとっております。

○金山委員　今年度新規の指定校と、再指定校がありますが、こちらはどのようにお話をさ

れましたか。

- 小林教育総務課長　高嶺小学校も学識経験者が入っていないのですが、現在学識経験者の方には打診をしており、その返事待ちということでした。それ以外のバランスは良いようでしたので、特に意見は申し上げておりません。
- 小田原委員長　そのほかいかがですか。
- 川上委員　学識経験者の基準とは何ですか。
- 小林教育総務課長　地域のこと、または学校教育に関して、豊富な知識を持っておられる方と考えております。
- 川上委員　私たちがいつも当たり前に使っているようなことで、本当に基準のないもの、わからないものは幾らでもあり、逆にその言葉で振り回されることが結構あるように思っています。学識経験者というくくりの人であっても、非常に考え方が狭い人も今まで見てきましたし、逆にそういう見方をされなくても、知識があり思いがある人はいます。だから、私がどんどん学識経験者という言葉に疑問が大きくなってきているのですね。ですから、どのような基準でここに入れているのか知りたいと思いました。
- 小田原委員長　学識経験者という枠を設けて、それを各学校の学校運営協議会の委員の中に入れるように言っていくとすれば、基準ということが必要になりませんか。
- 小林教育総務課長　規則の中で、地域、保護者、学識経験者ということで、規定はされております。この中からバランスよくということで、委員の選任をしているところでございます。例えば学力向上等を目指したいという学校では、学識経験者、教育関係者の意見をいただきたいという考え方もございます。教育委員会としましては、必ず入れなさいということではないですけれども、その学校の方針に合った方をバランスよく適切に入れていただきたいと思いますと考えております。
- 小田原委員長　例えば、第2号議案のときに、学識経験者として3人選任しましたが、二人が大学関係者で、もうお一人はどういった関係の方でしたか。
- 小林教育総務課長　行政出身でございます。
- 小田原委員長　行政出身も学識経験者であるわけですか。
- 小林教育総務課長　はい。行政出身につきましても、生涯学習、男女共同参画等、様々な経験、知識を備えておりますので、教育委員会としては、多様な知識を持っている学識経験者として考えております。
- 小田原委員長　そうすると、育成指導員、学校支援ボランティア、PTA、そういう経験

者も学識経験者であるわけでしょう。

○小林教育総務課長 そのような考えもあります。

○小田原委員長 そうすると、皆さんが学識経験者であるということになりませんか。身分がある人は身分で呼ぶし、だから選出区分に、学識経験者というものを入れるよう指導している以上、学識経験者の基準を示すことが必要なのではありませんか。地域とか、保護者ではない枠から選任できる部分を学識経験者として置くのだと考えるのですかね。

○川上委員 難しいですね。答えはないと思います。

○小田原委員長 大体、地域の住民という言い方もいいのかどうか。ここは1年かけて、来年に向けて選任するときに、枠をどうするかということは考えていただくということでよろしいですか。

○野村学校教育部長 精査をさせていただいて、適切な言葉があればそちらに直すよう検討してみます。

○小田原委員長 「保護者」と「PTA」のどちらがいいのか。また、保護者は地域住民ではないのか、そういった点についても検討をしてみてください。

そのほかいかがですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 特にないようでしたら、この形で今年度はお願いしていくということでもよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 それでは、教育総務課の報告は以上ということで、続いて、図書館から報告願います。

○福島生涯学習スポーツ部主幹 それでは、私からは資料に基づきまして、読書感想文コンクール等入賞者の海外派遣につきまして、報告させていただきます。

東京八王子西ロータリークラブからの事業面での支援申出により、実施の運びとなりました「平成24年度読書感想文コンクール」及び「平成24年度読書感想画コンクール」の中学生の部において、上位に入賞した生徒を、台湾の高雄市に連れていきました。

なお、校長会からの選出により読書感想文コンクールの審査員を務めました式分方小学校の清水校長が、東京八王子西ロータリークラブからの依頼により、同行しましたので、後ほど清水校長より、派遣中の生徒の様子や訪問しました高雄市の苓雅中学校における授業の様子等を含めまして報告があります。

また、私と清水校長のほか、市側からもう一人、通訳及び現地調整役といたしまして、市民活動推進部国際交流課所属の台湾国籍の嘱託員が同行しております。

さて、今回の海外派遣ですが、春休み中の3月26日から28日まで三日間、台湾の高雄市を訪問いたしました。高雄市は、位置的には北緯22度、香港よりやや北、石垣島の西南西にございまして、台湾南部に位置する台湾第二の大都市でございます。気候は、熱帯モンスーン気候で、日本との時差は1時間ほどです。台湾第一の都市の台北市からは台湾新幹線とも呼ばれる台湾高速鉄道で約1時間半から1時間40分のところにございます。ちなみに台湾の新幹線は、日本のJR東海との技術協力があるようで、東海道新幹線の700系の新幹線と、うり二つでございました。高雄市の人口は277万人、面積は八王子市の約1.6倍、約3,000平方キロメートルございます。また、台湾の高雄市と八王子市は、黒須前市長が在任中の平成18年に海外友好交流都市になっております。今回の同事業には、高雄市の名誉市民ということもございまして、黒須前市長が東京八王子西ロータリークラブから同行いたしましたことを申し添えさせていただきます。

なお、今年の2月中旬には、高雄市の最大の催し物、台湾の伝統文化を祝う毎年の恒例の祭り高雄ランタンフェスティバルが開催され、本市からは、石森市長、中村副市長及び伊藤市民活動推進部長が表敬訪問をしました。

今回の派遣は、資料3のとおり読書感想文コンクール、読書感想画コンクールの受賞者6名で中学1年生から3年生までの全員女子生徒でございました。

次に、派遣の内容ですが、1番目としまして台湾の高雄市の市庁舎を表敬訪問いたしました。

高雄市の生徒に対しては、八王子市の国際交流課が毎年、別途読書感想画コンクールを開催しており、その作品の中から八王子市長が最優秀賞を選出しております。昨年度までは、受賞した高雄市の子どもたちには表彰状と副賞のメダルを単に送付していましたが、今回は私どもが海外派遣に行くということで、台湾の高雄市の陳市長から受賞した子どもたちに対し直接表彰をしたいという申し出があり、表彰状及び副賞のメダルの授与式が行われました。報道関係者が取材する中、八王子の生徒たちは八王子市の代表として陳市長と一緒に壇上で表彰状の授与等に携わり、生徒たちは多少緊張していたとはいえ、大役を立派に果たしました。両市の友好親善の大役をなし遂げて宿舎に帰るときに生徒たちのはつらつとした会話や満足した表情を今でも私は忘れることができま

せん。

2 番目といたしまして、高雄市の苓雅中学校を訪問いたしました。高雄市全体では100校ほどの市立中学校があり、苓雅中学校は高雄市の市庁舎から近く、スポーツ及び文化的分野のどちらにも力を入れている伝統校でございます。こちらの中学校にて、高雄市教育局の理解を得まして、本校の生徒が直接英語の授業に参加して、交流を行ったところでございます。

お互いの生徒たちは、最初は遠慮がちのところもございましたけれども、共通語の英語の授業を通しまして、だんだんと溶け込み始め、授業の半ばからは苓雅中学校の生徒と一体となって授業に参加をして、立派に教育交流を行ってきたところでございます。

授業の終わった後も生徒たち同士で会話をしたり、記念写真を撮ったり、滞在時間をオーバーしてしまったという状況でございました。

やっとバスに乗り込み、苓雅中学校を後にするときには、苓雅中学校の他のクラスの生徒も門のところまで見送りにきてくれました。その他にも大勢の生徒が窓から手を振っていて、その場を離れるのが名残惜しい瞬間でございました。

一生忘れられることのない体験だったということを聞いたときには、私も感動を覚えたところがございます。

余り時間をとれなかったのですけれども、そのほかにも高雄市の観光文化に触れる時間もございまして、生活習慣等を確認し、あらゆる意味で国際感覚を養うことができたと感じているところがございます。

最後になりましたけれども、平成25年度につきましても、東京八王子西ロータリークラブから同様の事業を共催で行う旨の申し出をいただいているところがございます。今回の海外派遣の有効性を十分に確認できた状況でございますので、今年度につきましても、読書感想文等コンクールを実施することからスタートしまして、縦割りではなく、学校教育部や国際交流課とも連携した中で、豊かな読書習慣を身につけるとともに、青少年の健全育成のために効果的な事業を継続していく所存でございます。

なお、下段の写真は左側が高雄市庁舎で撮ったもので、真ん中の女性が陳市長でございます。右側は、高雄市の苓雅中学校で撮った写真でございます。

それでは、同行しました清水校長から、派遣中の生徒たちの様子等について、少し報告をさせていただきます。

○清水八王子市立貳分方小学校長 6名の女子を苓雅中学校に連れていき、2時間の英語の

授業を受けました。

荅雅中学校は、一般的な学力の中学校だと聞いておりますが、オールイングリッシュで行われており、母国語の中国語を話すことは全くありませんでした。日本の生徒たちも一応英語の授業を受けておりますので、英語さえわかればその授業にきちんと参加できるというものでした。

1 時間目は英語の読解の授業でしたが、6つのグループに分かれていて、そこに一人ずつ子どもたちが迎え入れられました。中学3年生のクラスでしたので、中学1年生、2年生にはどうかなと心配いたしました。オールイングリッシュということもあり、もともと勉強熱心な生徒たちですので、何となくわかったと言っていました。実際、英語の説明を英語で受ける授業を体験した生徒たちは、授業が終わった後に「ああいう英語の授業だったらいいのにね」ということを、みんな口々に言っていました。

今回中学3年生の生徒が一人おりましたが、荅雅中学校の英語の授業を受けてみて、自分の中学校の授業よりも少しレベルが高いという感想を持っていました。この生徒は都立八王子東高校に受かって、この4月から入学しておりますので、十分な学力を持っている子どもの判断ということになります。

2 時間目ですが、やはりオールイングリッシュでの質問タイムでした。くじ引きで当たった高雄市の生徒たちが、本市の生徒たちに質問をするという時間でした。決して難しい質問ではなく、中学生らしい「アイドルでは誰が好きですか」とか、「携帯はどこものを使っていますか」などという質問でした。「アイドルは嵐が好きです」と答えたところ、「嵐」という言葉がよく通じず、天候の嵐と思ったようですが、AKBの話をしたときには通じていたようでした。携帯についての質問に、「ドコモを使っています」と答えた子がいましたが、「ドコモ」も通じませんでした。それぞれ携帯、スマートフォンなどの文化は、全く同じレベルで話ができるのだということを横で見えていました。

「伝統的なお祭りがありますか」という質問には、「八王子まつりがあります」と答えていました。台湾の英語の先生が、自分のお子さんの踊りか何かの発表でたまたま八王子まつりに来たことがあるということで、八王子まつりの話で少し盛り上がりました。

「日本は好きですか」という質問に台湾の生徒は、「大変日本は好きです」と答えていました。英語の先生が「ボーイフレンドはいますか」という質問をした時や、それに続けて台湾の男子生徒の「僕はどうか」と言った時には笑いも起きていました。

大変わかりやすい英語ですので、中学1年生の生徒もそれなりに対応をしておりました。

最後にプレゼント交換を行い、本市の生徒たちはお菓子にメッセージを書いたものを渡しました。そのメッセージは、事前にホテルで子どもたち一人ひとりに書かせていたもので、日本語のメッセージの下に中国語の訳を書き、最後に自分の名前を記したものです。自分の名前のものでなくアトランダムに渡したので、台湾の生徒たちは誰が書いたものなのかという方に大変興味を持っていました。生徒たちは、お互いの名前を中国語で言えるようにとホテルの部屋で練習しておりましたので、これは誰のもの、誰のものと中国語で説明をしている姿を見て、大変うれしく思いました。生徒たちはホテルにいる時も台湾に早くなじむように、中国語の勉強などをしていたようです。

携帯やスマートフォンでのメールなどの話は言葉が通じなくてもそのあたりはわかるようで、帰りにはすっかり仲良くなり、別れを惜しんでいました。帰りのバスの中では、もっと英語を勉強したいとか、中国語を勉強したいと強く感じたという姿が見られました。大歓迎を受けて生徒たちも大変うれしく感じていたようで、いつか世界で働けるようになりたいという生徒もおりました。

よい経験をさせることで、子どもはこちらのねらいを超える成長を見せるものだと実感した瞬間でした。

初日の表彰式典において高雄市長と共に表彰状の授与等に携わった際も、自分たちが八王子市だけではなくて、日本の国を背負っているといった言葉が生徒の中から聞こえてきました。そのような国際感覚といったものは体験の中から自然に芽生えるもののだと思いました。すばらしい体験をさせてくれたのではないかなと思っております。

- 小田原委員長 図書館からの報告は終わりました。本件について御質疑はございませんか。
- 和田委員 非常に有効な交流をされてきたと感じました。ところで、資料の写真では「国際交流フレンド訪問団」となっていますが、派遣された子どもたちが、読書感想文や読書感想画のコンクールの入賞者だということは、相手の台湾の中学生や国は知っているのですか。

せっかくこういう読書感想を書いた子どもたちが行っているのだから、台湾の子どもたちはどんな本を読んでいるのか、日本の子どもたちはどんな本を読んでいるのか、要するにそういう読書に関するような意見交換はあったのでしょうか。いろいろな広い範囲でのかかわりが大事だと思うのですけれども、どんな本を読んでいるのかという、そ

ういう関心がこの子どもたちにあったのか、少し聞かせてください。

○福島生涯学習スポーツ部主幹　今年度は初年度でございましたので、計画的に難しい部分
がございまして、まず生徒たちを台湾に派遣すると、そういうところの目的でスタート
いたしました。よって、今回は読書に関する意見交換の時間はとることができなかった
というのが現状でございます。しかし、読書感想文コンクールの入賞者ですので、次回
以降はもう少し日程を調整し、読書に関する意見交換の時間を設けたいと考えています。

○和田委員　図書館がそういうスタンスで子どもたちを連れていくのだから、やはり日本の本
の紹介だとか、この子たちが読んだ本にどういった感銘を受けて、どんなことを感じた
のかというのを交流するような機会を、次年度以降はつくっていただけるといいと思っ
ています。よろしくお願いします。

○福島生涯学習スポーツ部主幹　そのようにしていきたいと考えております。

○小田原委員長　今の日本、これは大人も含めて、特に若者たちは内向きだと言われていま
す。そういう意味でこの交流が国際感覚を養うというところで、内向きでない一つのき
っかけをつくっているというのは良いところと思うのだけれども、先ほどの説明の中の
最後にもあったように、この事業を縦割りではなくて横につなげて展開していきたいと
いうことです。その第一に読書習慣を身につけさせるところがあるわけですから、この
交流もそこを抜きにしては意味がなくなってしまいます。国際感覚を広げるというところ
でとどまってしまうのではなく、そのような観点を忘れないでほしいということだろ
うと思うのです。

例えば、中学校3年生の生徒と1年生の生徒では「感想文はこんな文章です」と言う
ことも紹介されればもっと広がっていくだろうし、台湾の子どもたちは「どういう感想
文で表彰されたのか」ということも紹介されると、意味がさらに広がっていくだろうと
いうことです。ただ「行ってきました」という報告で終わらないでほしいです。

現役の校長が定例会に来て発言する機会は、教科書採択以外ではめったにないこと
です。何か御質疑、御意見ございませんか。

○清水八王子市立武分方小学校長　いい機会を子どもたちにつくってあげることができてよ
かったと思っております。私にもこのような場をいただき嬉しく思います、ありがとう
ございます。大変良い貴重な経験をさせていただきました。

○小田原委員長　その他ございませんか。

○坂倉教育長　苓雅中学校は春休みではなかったのですか。

○福島生涯学習スポーツ部主幹 台湾は旧正月の関係で、春休みではありませんでしたので、普通の英語の授業に参加いたしました。

○小田原委員長 説明の中では苓雅中学校と言っていましたが、資料の写真では歓迎の横断幕に「苓雅国中」と書かれています。この「国」は何ですか。

○福島生涯学習スポーツ部主幹 国際交流課にも確認しましたが、通常、苓雅中学校という読み方をしているようでございますが、正式には苓雅国民中学校というようでございます。

○小田原委員長 これが資料として残るのであるならば、どこかできちんとそのように言わないと失礼に当たるのではないですか。

○川上委員 学校名の発音は何というのですか。日本語では「れいが」でしょうけれども。

○福島生涯学習スポーツ部主幹 「リンヤー」と発音します。

○川上委員 今回、入賞者と6人が、このような経験をしてすばらしい成長をしてきたということはよくわかりました。要するに教育というのは実体験が絶対に大事だというのは誰でもわかっていることでしょう。ただ行ってきて、空気だけ読んできたのではだめで、やはり一つひとつのことに興味を持たせる指導というものがほしかった気がします。

東京西ロータリークラブからの申し出はありがたいことだと思いますが、生かすもただのものにしてしまうのも、受けた側としての責任があると思います。引率をなさる方も100%とはいきませんが、どんなことでも興味を持って、子どもたちにもきちんと説明ができて、あらゆる場面で、一緒に勉強ができたらいいのではないかなと思いました。

○福島生涯学習スポーツ部主幹 御意見ありがとうございます。次回は今回の反省を踏まえて、もっと有効にしっかりと計画を立てていきたいと考えております。

○和田委員 今回中学校の入賞者で参加は女子生徒だけでしたが、小学生が読書をするに当たって、男女差だとか、男の子が余り関心を示さないという状況があるのですか。

○清水八王子市立武分方小学校長 今回、中学校の部の入賞者には、男子生徒が一人おりましたが、男子が一人だけの旅行になってしまうということで、辞退したということです。

小学校に関しては、やはり女の子のほうが読書数も多く、作文の学力も高いのが実態です。もちろん男の子の中にも文章を書いたりすることが得意な子は何人かおりますが、女の子のほうが多く、この点については男女差があります。

○和田委員 やはりこれからも女子が多いのでしょうか。訪問した先でも、男子生徒もいて

交流をできるような機会があったと思うのです。日本の八王子から来た中学生は、みんな女子だったというよりも、交流をするのであれば、男子も女子も交流できたらよいと思います。今回は男子が一人だったから行きにくかったのではないかと思いますけれども、男子の入賞者もこれから増えるといいと思います。

○坂倉教育長 資料の項目5番で、「少なくとも平成25年度」と書いてあるのですが、東京西ロータリークラブには大いに感謝して、継続して実施をしていきたいです。そして時期については、中学校の試験時期に作文の時期が重なった学校があったので、次は時期を考慮するなど、多くの生徒に参加してもらえるよう、その辺はまた声かけをしたいと思っています。

○小田原委員長 全額を東京西ロータリークラブに頼るのでない形で実施することができれば、長続きするだろうと思います。

○坂倉教育長 そういう意味では、先ほど言ったように、どのように生かしていくかと、それから横の連携が必要になるだろうと思います。

○小田原委員長 教育だけが受けるのではなくて、市長部局の国際交流課などの力が大きいだろうと思います。ほかに御意見ございますか。

○金山委員 この結果は、八王子市のホームページには載せていますか。

○福島生涯学習スポーツ部主幹 読書感想文コンクールの結果につきましては、今後、早いうちに八王子市図書館のホームページに掲載していきたいと考えております。

○小田原委員長 紙ベースも含めて、図書館や事務所に置くという形をとるとか、学校へ配ることが、東京西ロータリークラブに対する感謝の気持ちの表れになるだろうと思います。

○福島生涯学習スポーツ部主幹 そのように計画をしております。

○金山委員 こうした資料を各学校に配るといいと思います。

それと、せっかく台湾に行かれたので、先生は自分が行かれたことを学校に、子どもたちに還元をされるチャンスがあると思います。また、中央図書館での展示とともに、台湾の作家の特集をするなど、今回の事業をより広がりのあるものとしていただきたいと思います。

○川上委員 期待します。

○小田原委員長 そのほかよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、図書館からの報告は以上ということで、お疲れさまでした。

そのほか、何か報告する事項等ございますか。

○野村学校教育部長　文化財課から1件あります。

○田島文化財課長　1件、口頭にて報告させていただきたいと思います。

国史跡八王子城跡についてですが、平成24年に復元的整備工事を実施した御主殿跡の一般公開を4月14日から開始したいと思います。

この整備についてですが、平成4年、5年の発掘調査で出土した建物跡の礎石から間取りを復元した会所や、地下に眠る遺構や礎石を地上に表現した展示となっております。

今回整備をした御主殿につきましては、城主の生活の場であるとともに、軍議や他国の使者と面会するなど、儀礼的な催しを行った城の中でも最も重要な場所でございます。

なお、14日の午前10時から12時まで、整備を担当した学芸員による解説も行う予定でございます。

委員の皆様におかれましては、ぜひ復元的な整備を行いました御主殿の見学に足をお運びいただければと思っております。

説明は以上でございます。

○小田原委員長　御主殿の公開は、いつまでですか。

○田島文化財課長　14日に公開を開始し、その後は継続して公開します。

○小田原委員長　ということでございます。

そのほか、報告は以上ですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　委員の皆さんで何か報告する事項等ございますか。

○川上委員　地域運営学校の入学式に行ってみりました。校旗を真ん中にして国旗と市旗を壇上に飾っていました。地域運営学校だから、学校を中心にと考えてそのようにいたしました。という校長先生の説明がありましたので、報告しておきます。

○小田原委員長　大丈夫ですか。どこかから何か質問等されたときの為に回答を用意しておいたほうがいいかもしれませんね。

ということですが、ほかにもございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　では、特にないようでございますので、予定された公開の教育委員定例会は以上で閉会とし、暫時休憩といたします。再開は45分からといたします。休憩後は

非公開となりますので、傍聴の方は御退出願います。

[午前10時38分休憩]